

**留学先国名** : イギリス

**留学先学校名** : EF マンチェスター語学学校

**留学期間** : 平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 12 月 3 日

4 月から 9 月までマンチェスターにて英語を勉強しました。しかしすぐに後悔しました。自分が行ったのは語学学校。近くにはマンチェスター大学があり大きく、夜も開いている図書館も使うことが出来ず、マンチェスターのシティセンターにある図書館にバスで行く他はなく、さらに今後留学で語学学校を考えている人は注意したほうが良いかもしれません。

私にはマンチェスターから電車で一時間ぐらいの小さな町、プレストンに住む BBC (British Born Chinese) の友達がありました。彼とは 2013 年度の北京大学学部協定留学の際に出会った友達です。彼はプレストンの University of Central Lancashire に通う四回生で、週末には電車で彼の家まで行き一緒に過ごしていました。イギリスにはたくさんの広東系中国人移民が暮らしている事は聞いていましたが、彼らのイギリスでのつながりは非常に強いものがありました。プレストンの中国系カラオケ店の店長はすでにその私の友達とつながりがあり、さらに町の複数の中華レストランの店長や従業員とつながり、その息子に英語を教えたり、忙しい時に配達を手伝うことにより普段の生活で良くしてもらったり、割引してもらったりしていました。さらに BBC は中国人留学生とイギリス人が友達になれるパイプのような働きをしている事に気がきました。どこの国の留学生でも同じ事がいえますが、現地大学生と生活をせず同じ国の友達とつるむ傾向があります。そこで双方をパーティーに誘うなどして潤滑油のように中国人留学生を助ける役割をしていました。

10 月から私はプレストンに移り、中国市場向け教育系ベンチャーでインターンシップを開始しました。その BBC の友達にはハウスメイトがおり、他の三名の中国語が流暢なイギリス人と住んでいました。そのイギリス人が中国市場向けに英語教育系で起業したので、そこでインターンをさせてもらう事になりました。彼の名前は Ellis です。もう一人共同立ち上げ人がおり、その人は北京出身の陳さんという方でした。事業内容はイギリスの小中高学校、大学と中国の小中高学校、大学をともにパートナーと結び合わせ、互いに訪問する旅行の代理と、中国の小学校の英語の新たな教材開発でした。もう一つ新たな事業計画として中国人留学生の一年生を対象に Lake district でチームビルディングを企画するものでした。先に私が今回学んだ事は中国の教育市場はとてつもなく莫大であるがコンテンツとマーケティングが充実していないと顧客を取り込むのが難しいという事と起業のリスクです。10 月初めにチームビルディングを行う為にキャンプ地を視察しに行き、チームビルディングの一つ一つの内容を専門家と決め、その後中国人留学生会会長を呼び出し宣伝協力の約束を取り決め SNS での宣伝もしました。しかし 20 名以上の参加を見込んでいたところ 5 人しか参加希望者がおらず、採算が合わないため中止となりました。失敗した原因としては設定価格が高すぎた事と MBA 向きの内容を一年生対象にやろうとして一年生の意識が追い付かないという事に気付けなかったのです。

それから大学の先生と協力して英語ドラマ教材の開発に着手しました。中国の英語を暗記する教育方法を変えて子供のうちから英語に興味を持つような教材を作りたいという想いからでした。大学の先生と協力して英語のダンスや歌に取り組み楽しみながら英語が学習できるテキストとなりました。そして北京の小学校で実践してもらえる運びとなり授業が始まりました。しかし中国の教育局とうまく付き合う必要があり、さらにイギリスの英語教師を派遣して定期的に直接この科目を教えてもらうつもりが、外国人は教壇に立つてはいけないと教育局に言われてしまい、推進が難しくなっていました。その頃には同時に HSBS に融資を受ける為の報告書を作成、提出しているところでもそこにもいろいろな問題でうまく思った通り融資を受けることができませんでした。Ellis は 6 月に卒業してからお金を稼ぐため貯金を使って起業しましたが、それは年俸日本円で 580 万円の中国の企業のオファーを断っての起業でした。こうした問題で収入が思うように入っていない中、その時の判断が正しかったのか自問自答するようになりました。Ellis がなぜ新卒 580 万の好待遇を断ってまで起業したのか聞くと、26 歳の中国人の彼女と結婚する為だと言っていました。イギリスでは外国人と結婚して相手をイギリスに住まわせるためには一定額の貯金の証明が必要だという事がわかりました。

今も失敗を繰り返しながら Ellis は成功のために頑張っています。今後彼が成功するかどうかわかりません。私は日経自動車会社に憧れを持っていましたが、当初 Ellis に会った時は起業もいいかもしれないと考えました。しかし実際起業というのは地道な努力の積み重ね、プレッシャーの中で事業を推し進めていく強い信念が必要なんだと肌を持って感じました。私にも結婚を考えている 26 歳の中国人の彼女がいます。今回の経験を経て、いきなりの起業はリスクが高すぎるので出来ないと考えるようになりました。しかし就職しながらも自分の信念を持った事を推し進めていく事に魅力も感じたので今度の自分のキャリアに活かしていこうと考えるようになりました。